

「品質の仲間」づくりに向かって



(株)デンソー
若林 宏之

品質管理学会員の皆様、こんにちは。北京オリンピックが終わり、パラリンピックが始まろうとしている中でコロナのオミクロン株の勢いが未だ衰えず、更にその様な中でロシアがウクライナの侵攻を開始したという事を耳にしながら前に山が見える三重県の自宅でこの巻頭言を書いています。

私は二橋前会長が会長に就任された第50期に本学会の副会長を拝命し、この第51期で2年目となりました。二橋前会長が3ヶ年中期計画を示されて今期は永田会長がそれを受けてその2年目の実行の年となります。そこで1年目を終えての感想と思う所を述べさせていただきます。

昨年は品質管理学会50周年という節目の年であり、コロナ禍の逆風の中でも関係者の皆様の努力でオンラインを主体に記念シンポジウムを開催するとともに、このオンラインでの様々な催しが定着した年でもありました。会員の皆様も感じておられると思いますが、移動の必要がない為に意外と便利であったり、一方やはり臨場感とか終わったら懇親会というわけにはいかずに物足りないこともあったりしたと思います。また支部行事と謳って開催している催しが何処からでも参加できるということで品質管理学会の活動の一体化にもプラスになっていると感じていました。

しかし、一方で残念に思っている事は第50期から賛助会員の増強などに努めてきてはいますが、やはり会員数の減少に歯止めがかかっていない事です。もっと「品質の仲間」を増やしたいものだと思います。

改めて品質管理学会のミッション、ビジョンを記載しますとミッションは、「あらゆる Quality (質) 向上に役立つ技術・手法を研究・開発し、その成果をすべての分野に普及させる」、そしてビジョンは「Qの確保」「Qの展開」「Qの創造」です。

このミッション、ビジョンに基づいて第50期の活動でもキャラバン活動などが積極的に行われてまさに努力の真っ最中ですが、さらにこのビジョンはどこにでも適用できると思います。

例えば少しローカルな話で恐縮ですが、冒頭で自宅の前に山が見えると書きましたが、最近この山の間伐が始まりました。私の近くの山は全く手入れがされていない状態が長く続き、誰も手がつけられなかったのですが、カーボンニュートラルを旗印にした会社が間伐費用を木材チップ代で回収する事で実現に至りました。誰も手をつけなかったことが実現し始めてとても良いのですが、例えば山の地形をリモコンヘリで測量する時の事前説明がないため住民を驚かせたり、その後どの山からどういう順番で間伐が開始されるのかとか、伐採後の片付けなど、大問題ではありませんが、今後このビジネスモデルを成功させる為に、間伐に至るまでのステップや工法・進捗管理、地域とのコミュニケーションなど多くの点で品質管理学会のビジョンの適用の余地がありそうだなと思いながら見ている所です。

どこにでも適用可能なビジョンとは言いつても、仲間づくりをもっとしていくにはキャラバン活動でも行われている様にその実情に合わせた発信や困り事に的確に対応できる手法の提供が不可欠であると思います。そしてより多くの分野で発信や提供をするからこそ、その情報や成果がまた自らに返ってくるという「品質の仲間」をもっと増やしていきたいものです。

そのために、品質管理学会には既に多くの優れた研究成果や方法論があるわけですが、更にこれを進めて例えばモノづくりにおいてはビッグデータの活用における方法論やAIの活用における品質の議論などにも目を向けて、今後は非「品質の仲間」づくりに品質管理学会員の力を結集していきましょう。